



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

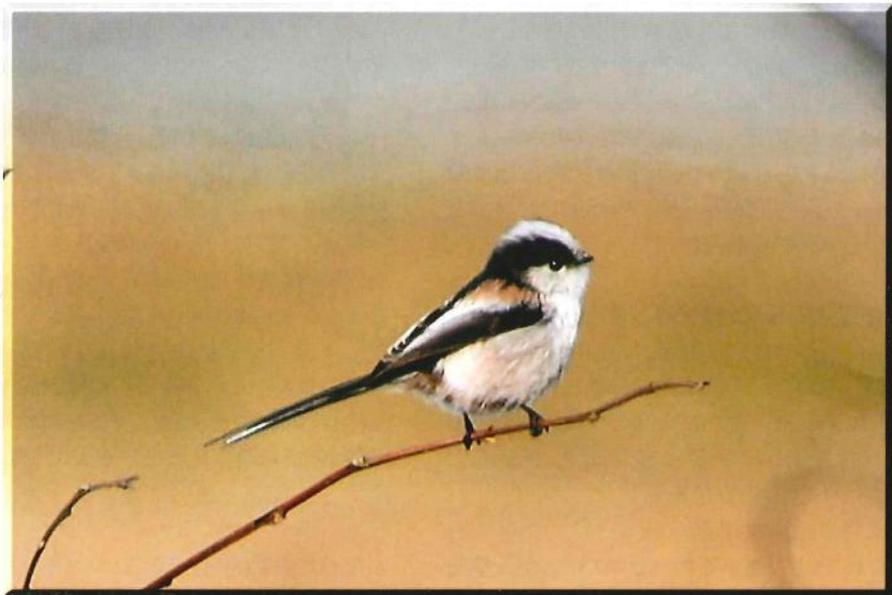
しらこぼと

2009.10

No. 306

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O

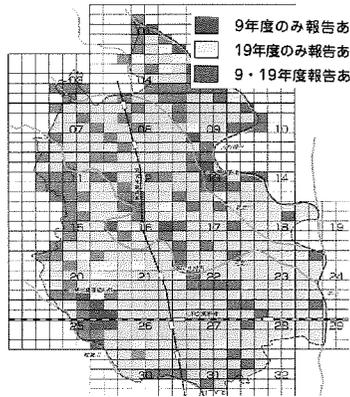


越谷市における「現在と20年前のシラコバト」 山部直喜(三郷市)

シラコバトの生息数は、埼玉県教育委員会『天然記念物緊急調査報告 越ヶ谷のシラコバト (1982)』(27年前)が、越谷市に生息する数を試算として7,434~14,994羽と報告している。今回は、現在の越谷市における状況を越谷市『第3次ふるさといきもの調査(平成20年12月)』から、20年前の様子を越谷の自然を調べる会『越谷の自然(昭和62年度版)』をもとに報告する。

● 現在の状況

「シラコバトがいらない！」これは、越谷市「第



3次ふるさといきもの調査」の市民調査委員(243名登録)の多くの方々が発した叫びである。

この調査は5年ごとに実施されており、私は第1次調査以来、野鳥部門のとりまとめをしてきた。

調査は市内を570メッシュに分け、36種の指標生物(野鳥関係14、左上図はシラコバトの分布)が、東西400m×南北300mの中に1年間で「確認された、されなかった」の記録である。従って生息数は分からない。

しかし、今回までのデータを並べてみるとシラコバトの激減ぶりが数値で表れてくる。

平成9年度第1次調査では、140メッシュから286件、平成14年度第2次調査では88メッシュから178件、そして今回は38メッシュから62件の報告なのである。

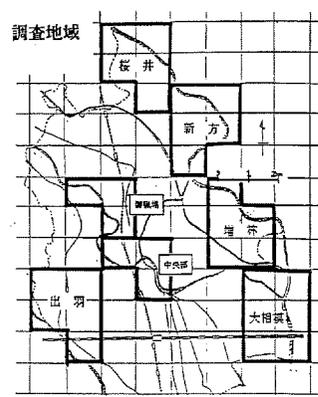
「群行動から単独行動へ」最もシラコバトを熱心に観察していた方が、「以前は必ず複数で行動していた。今は単独で行動している」と話してくれた。確かに今回の一次資料を見ると、38メッシュ中27メッシュで、確認したときは1羽の報告である。

まさに絶滅危惧種。

これでは、「越ヶ谷のシラコバト」が天然記念物として認定されなくなるのではないかと心配である。

● 20年前の状況

「シラコバトはあたりまえ」越谷市に住んで



いた頃、市内を約1km×1kmのメッシュ76(左図)に分け、その中の自然度が高いと思われる32メッシュ

について、ライン・センサス法で夏鳥、冬鳥の調査を行っていた。そして、結果を『越谷の自然』に報告していた。その中で、1987-88年の冬鳥調査は、確認した53種の個体数一桁台は+、二桁台は++、三桁台は+++、それ以上は++++で表記していた。

しかし、その時の一次資料には個体数は数字で記録しておいた。今回はそれを提示する。

「349羽を確認していた」桜井地域5メッシュに21羽、新方地域5メッシュに79羽、増林地域5メッシュに138羽、大相模地域6メッシュに32羽、中央部地域3メッシュに15羽、御獵場地域3メッシュに40羽、出羽地域5メッシュに24羽、計32メッシュに349羽だ。1メッシュに47羽の記録もあった。

この調査をしたときは、さほどシラコバトに注目していなかった。当たり前の普通種の印象が強かった。しかし、改めて記録を洗い出すと、現在と比べて夢のような。

たったの20年前である。コバトンが増えてもうれしくない。シラコバトがトキの道歩んではいけないのである。

昨年、念願だったアメリカのネバダ州とユタ州、アリゾナ州を旅する機会に恵まれた。

その日の行程はモニュメント・バレー近郊のカイエントからグランドキャニオンまで3時間のバスの旅だったのだが、これは、途中で昼食に立ち寄ったナバホ族の人が経営する食堂兼モーテル兼お土産屋と言ったところのCAMERON TRADING POST でのことだった。表現のしようがないくらい不味い昼飯を早々に切り上げ、店の周辺を飛び交うイエズズメの後を追って、砂漠の中のオアシスのようにそこだけに数本の樹木があるモーテルの中庭に迷い込んだときだった。

どこからか、聞いたことのある鳥の聲が風にそよぐ木々の間から途切れ途切れに聞こえてきた。「ポポーポ ポポーポ」。双眼鏡で見たその鳥はアリゾナの高い空をバックに新緑の柔らかな緑の葉の中にいた。「シラコバトだ」。しかし、その思いはすぐに「まさか？」に変わった。「アメリカにシラコバトが居る？シラコバトは中国大陸と中近東とヨーロッパが主な分布域のはずだ。良く似たジュズカケバトではないだろうか」。

鳴き声が止まった。次の瞬間、チョット身を屈めたかと思ったら大きく翼を広げて数回はばいた後、アリゾナの空に消えていった。

手持ちの図鑑で調べたところ、シラコバトはジュズカケバトに比べて少し大型で、下尾筒の辺りの灰色味が濃く、尾羽の基部がより黒っぽいのが特徴であることが判った。夢中で撮った写真を見ると正にシラコバトではないか。〈ARIZONA にシラコバトがいた！〉のだ。

帰国して調べたところ、『The SIBLEY Guide to Birds』に次の記述を見つけた。

「Eurasian Collared-Dove was introduced from Europe and is rapidly colonizing in North America.」。

北アメリカのシラコバトはヨーロッパからの移入種である、ということだ。

また、『日本鳥類目録改訂第6版2000』（日本鳥学会）によると、日本に分布するシラコバトの学名は *Streptopelia decaocto decaocto* ということだ。

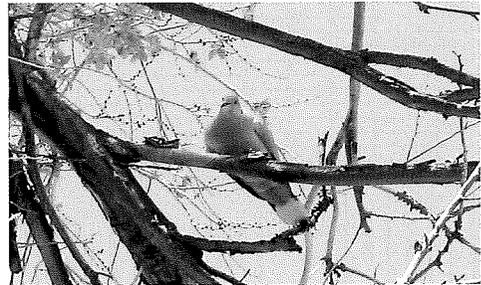
シラコバトの亜種には諸説あるようだが、Howard and Moore の『CHECKLIST (Third Edition)』によると世界に2亜種で、その分布も含めて次のように記してある。

S. d. decaocto ……Europe to W China

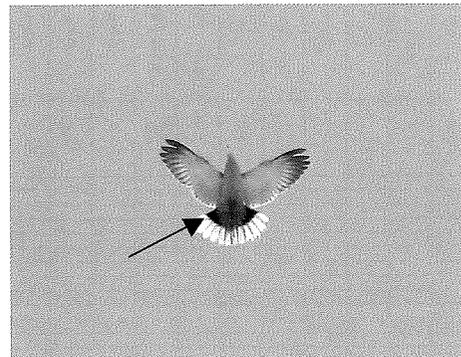
S. d. xanthocyclus ……Buruma to E China

これらから、北アメリカのシラコバトは日本に生息するシラコバトと同じ亜種ということになる。

私は北アメリカのシラコバトにアリゾナの荒涼たる環境でさえ生きていける生命力を見た。いわんや緑溢れる日本の山野だ。そこに生息する同じ亜種の日本のシラコバトにエールを送りたい。「頑張れ！頑張れ！シラコバト」。



(さえずるシラコバト 2008年4月 ARIZONA の CAMERON にて 筆者撮影)



(飛翔するシラコバト 尾羽の基部(矢印)が黒っぽいのでシラコバトと判る。2008年4月、ARIZONA の CAMERON にて筆者撮影)

2009年冬 カモ科調査

日本野鳥の会埼玉支部研究部

本調査が実施された2009年1月10日から12日は良い天気が続いた。2008/2009年冬は弱い暖冬。去年に比べ総数29%増、2005年から2007年は14,000羽を越えたが、今回は1,000羽ほど下回っている。マガンが2羽、給仕中止によるコハクチョウの急減、トモエガモの低減継続などが特記すべき状況である。

県内40カ所での50名の方々のご協力に感謝します。

(文責 小荷田行男)

調査地	入間川	荒川										古利根川	大宮調整池	利根川	渡良瀬遊水地	狭山湖	小群川調整池	新河岸川	百穴湖	八丁湖	森林公園	武蔵丘陵	大沼公園	川越水上公園	
調査範囲	豊水橋〜新宮十見橋	荒川鉄橋〜戸田橋	《荒川第一調整池》 道満										藤塚橋〜古利根橋	池全部	坂泉大橋下流	貯水池	湖全部	池全部	川崎橋〜寺尾調整池	池全部	池全部	公園内の池全部	大沼	池全部	
地域	狭山市	戸田市	戸田市	さいたま市	富士見市	熊谷市	江崎町	香取町	香取町	松伏町	越谷市	越谷市	越谷市	本庄市	北川辺町	所沢市	川越市	川越市	吉見町	吉見町	清川町	熊谷市	川越市		
マガン				1																					
コハクチョウ						2																			
オシドリ									90																
マガモ	10	15		3	28				44	5		17	59	573	509	6	50	35	121		808	4	4		
カルガモ	34	3	53	5	64	7	21	4	9	5	15			368								10		81	
コガモ	55	6	67		44	27			4				18	136	21	47	8	37	8	5	72			81	
トモエガモ														3	7										
ミシガモ		16											8	7					27						
オカヨシガモ	5	30											32	7					7						
ヒドリガモ	2	17	2		32					149				7					98	283				16	52
オナガガモ		20	3											24	440				81	2			52	1	81
ハシビロガモ					22								4	24					2		5			4	
ホシハジロ													6						1	11					
キンクロハジロ	4	43		1									6	3							45				
ホオジロガモ		1			2																				
ミコアイサ									1							99									
カワアイサ																6									
カモpp															1516										
種数	6	4	9	1	7	6	1	4	4	1	6	6	9	6	6	6	5	8	6	3	8	3	4	4	
合計	110	46	230	5	167	77	21	139	167	5	66	282	3040	649	195	575	141	137	945	21	218				

県立森林公園	さいたま市古墳	白幡沼	見沼自然公園池	柳瀬川	黒浜沼	元荒川	赤堤遊水池	緑の丘公園	宝蔵寺沼	川島町 越辺川	大宮公園ホト池	大宮第3公園	さいたま市芝川	加田屋川	見沼代用水東線	見沼代用水西線	行田浄水場	合計	
芳沼	古墳の池全部	沼全部	池全部	富士見橋〜栄橋	上沼	城北大橋〜水管橋	今宮端〜清揚島	池全部	池全部	池全部	八幡岡地前	池全部	池全部	山口橋〜八丁堤	七里公園〜加田屋橋	七里公園〜山口橋	浦和堰〜附島橋	池全部	
深谷市	行田市	さいたま市	さいたま市	富士見市	蓮田市	さいたま市	蓮田市	桶川市	松伏町	羽生市	川島町	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	さいたま市	行田市	
											46				1				2
																			48
																			82
138	128		2	6			197	35	7	3				36	3	4	217	3151	
10	42		48	15	54	48	82	33	12	242	46	3	41	127	82	154	210	18	2165
45	30		50	66	49	127	131	230	170	111	74		40	241	110	18	210	2338	
																			11
														2	14				74
62		8						1					4	29	13				199
		10	45		58			42					17	7				155	1425
234	2	1	164					87	3	54	54		5	10				45	850
		3											4	24				2	80
64		2											11	6					102
294		3											48	1				437	885
									3										7
																			108
																			7
																			1525
7	4	3	7	3	3	3	3	5	6	3	5	4	7	13	4	4	1	8	198
847	292	7	284	126	109	233	230	589	224	360	222	116	113	507	211	178	210	1085	20723



野鳥情報

さいたま市見沼区膝子 ◇5月26日、田の畔にたった1羽のムナグロ。仲間とはぐれ、北帰行がおくれたか。7月28日、電線にコムドリ4羽（鈴木紀雄）。

さいたま市見沼区見沼自然公園 ◇6月20日、池でオオバン1羽（藤原寛治）。

さいたま市見沼区片柳 ◇7月28日、ムクドリ約50羽の群れ中にコムドリ若鳥1羽（鈴木紀雄）。

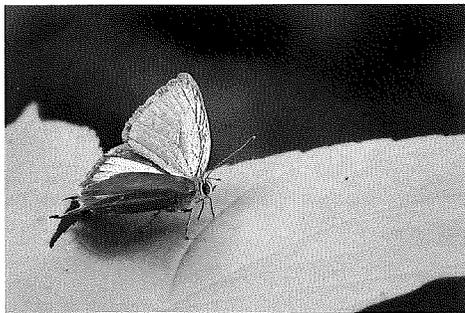
さいたま市桜区塚本 ◇6月1日、田んぼでヒクイナのさえずり（小荷田行男）。

さいたま市桜区秋ヶ瀬公園 ◇6月1日早朝、ビンズイがさえずり、ホオジロもさえずる（小荷田行男）。

さいたま市桜区大久保農耕地 ◇7月23日、A区のアシ原でオオヨシキリ、ヨシゴイ（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区野孫 ◇6月2日、ケリ成鳥4羽ほど。6月5日、ケリ4羽。6月11日、3羽。6月15日、4羽。7月1日、2羽。7月10日、2羽。7月17日、小さな休耕田でクサシギ2羽、コチドリ10羽。7月24日、セイタカシギ1羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇6月14日午前7時頃、ガビチョウのさえずりを聞く。ここでは初めて。埼玉県の蝶、ミドリシジミが下の方に降りていた。エメラルドグリーン羽が朝日に当たり輝いていた。7月4日、ハンノキ林でコムドリ♂1羽、枝移りして行った先に♂がもう1羽。その近くに♀1羽、少し離れた所にもう1羽♀が



ミドリシジミ（徳名貴房）

いた。林の奥にゴイサギ幼鳥1羽が佇んでいた。コムドリ観察中、道路上を横切る黒い蝶、きれいなナガサキアゲハの♀だった。ここでの確認は初めて。7月20日、元荒川上空を飛ぶゴイサギ成鳥3羽（藤原寛治）。◇6月30日、早くもコムドリ♂1羽発見。7月1日、コムドリ2羽（鈴木紀雄）。

さいたま市岩槻区岩槻公園 ◇7月21日、電線のムクドリ群れ中にコムドリ5羽ほど確認（鈴木紀雄）。

越谷市大吉調節池 ◇5月30日午前中、保護ゾーンの柳の梢でカッコウ1羽、6月5日朝は隣接する住宅街の電線上で1羽、盛んに鳴いていた。もう1羽は近くの川の土手の木に。まもなく2羽とも池の方へ。7月現在、大吉周辺でカッコウの声を時々聞くことができる。6月10日朝、ヒドリガモ♀1羽確認、7月8日現在まだ滞在。元気に泳ぎまわり、水草などを食べている。ここで越夏するのだろうか？ 6月16日、ヨシゴイ1羽、その後確認できず。7月8日ゴイサギ成鳥2羽、若鳥7羽。6月以降で最大数（植平徹）。

越谷市大吉 ◇6月13日朝、なのはな公民館北側の水田地帯でコガモ♂1羽、同所に7月3日まで滞在。当初は♂の特徴がはっきりしていたが、最後は、だいぶ♀に似てきた。6月16日朝、同じく水田地帯でチュウシャクシギ1羽、翌日まで同所に滞在。この地域では、私が観察した最も遅い渡り。7月8日午後同じ水田地帯でアマサギ12羽、チュウサギ10羽、コサギ6羽、アオサギ1羽、コチドリ11羽。アマサギはトラクターの後をつけて回っていた。今季最高の数（植平徹）。

三郷市半田 ◇6月1日、新三郷駅の南東の跨線橋でチョウゲンボウ♂1羽と♀1羽。♀が尾を上げ、交尾をせがむように♂ににじり寄ったが、♂は「もう勘弁してよ」とでも言うように飛び去った。子育てに疲れ果てたのか（高田範之）。

三郷市仁蔵 ◇6月6日、造成中のららシティ内の公園でシラコバト5羽。以前はよく

見られた三郷市半田の養鶏場付近では少なくなりましたが、最近、仁蔵付近でよく見るようになった。罫が移転したのかな（高田範之）。

三郷市さつき平～彦成 ◇6月8日、自宅のあるさつき平のマンションの屋上からカッコウの声、当地では初めて。6月10日、彦成4丁目の三郷団地の屋上のアンテナに止まって鳴くカッコウを撮影。7月4日、この朝もカッコウの声を聞く。同じ個体なら、この日で約4週間にもなるのに、随分長居するものだ。マンションや団地の高層住宅が気に入ったのだろうか（高田範之）。

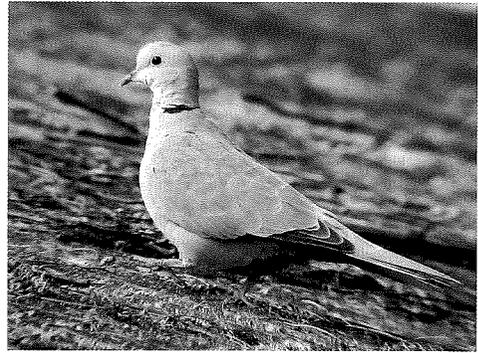
鴻巣市大間一丁目 ◇6月1日、雨上がりの朝。午前10時すぎ、サシバ1羽が、我が家の西の空を気流に乗って旋回。空の高みに昇って東の空へ飛び去る（榎本秀和）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇6月2日、シジュウカラの幼鳥が甘えて、親鳥に餌をねだっていた。タカが上空通過。6月12日、コアジサシが2羽、西城沼上空を旋回してはホバリングして採餌。小魚をくわえて北方に飛んでいった。ツバメの巣立ち雛が4羽、電線に並んで親から餌をもらっていた。6月18日、モズの巣立ち雛が3羽、親2羽の後を追って枝移りしていた。甘えた姿がかわいかった。6月18日、キジバトがキウイの棚に造巣して抱卵していた。卵が1個見えた。6月23日、キジバトの親鳥は留守で卵も無かった。巣を放棄してしまったようだ。6月27日、ゴイサギ8羽北方に通過。ムクドリの幼鳥の群れ50羽が広場で採餌。7月30日、オナガの巣立ち雛が親に餌をねだっていた（長嶋宏之）。

蓮田市蓮田 ◇6月18日、蓮田南中学校脇の広い田んぼでアマサギ13羽、空を仰ぐ者、遠方を眺める者あり。『亜麻鷺や 青田吹く 風 旅半ば』。6月19日、姿見えず。どこへ行ったやら（尾形康夫）。

行田市須加 ◇6月14日、車の運転中、ハヤブサ1羽の飛翔を確認（鈴木紀雄）。

春日部市赤沼 ◇6月16日午後3時頃、桃屋春日部工場古利根川側でシラコバトのペアを3組確認。昨年は6月8日に12羽確認



シラコバト(又部綱仁)

しました。工場内のクスノキの枝を殆ど切ってしまう環境が変わって、しばらくシラコバトが見られませんでした。繁殖期に入り、集まり出したようです。工場内が営巣に適しているのかな？（大塚操）。

杉戸町東武動物公園 ◇6月22日 ゴイサギ6羽、ダイサギ2羽通過（昨年の同時期はサギ類の罫があったが、今年は無い）。カルガモ5羽通過。コジュケイの声。カワセミが営巣したようだ。ツバメが3羽低く飛んだ。ここでは珍しいイワツバメ2羽。シジュウカラの声。ムクドリ30羽の群れ4回。カワウ多数（長嶋宏之）。

熊谷市万吉 ◇7月12日午前9時、農道を大麻生探鳥会にむけて自転車走っていたら、聞きなれない声。声の方向を見ると、稲のない水を張った水田の畔にセイタカシギ、2羽は成鳥で1羽はひ、もう1羽の成鳥は♀で脚に標識が付いていた。両標識は汚れているのか薄茶色とかベージュとか、そのような色だった。他の3羽は羽の色もやや薄く頭から首にかけて黒っぽい部分があることから、若鳥と思われた。以上のことから、家族である可能性が高いように思われる。12時過ぎ、探鳥会の帰りに確認したらまだいた。車で探鳥会に行くのだと別の道を通るので、自転車ラッキーだった（森本國夫）。

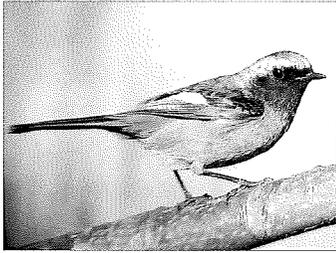
表紙の写真

スズメ目エナガ科エナガ属エナガ

町田好一郎(本庄市)



行事案内



ジョウビタキ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原、浅見、岡安、大坂、内藤、立岩、永野(安)、山野、長谷川

見どころ：秋の渡りの真っ最中。この好季節に野外に出ない手はありません。南に帰る鳥との別れを惜しみ、北からの鳥にご挨拶。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月4日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から東川口 駅北口行き 8:37 発で、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：渡りの季節、秋晴れを期待して南へ行く夏鳥を見送みましょう。気の早い冬鳥にも出会えるかも。

ご注意：調節池の工事が本格化してきました。当日の状況によってはヘルシーロードコースに変更することもあります。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：後藤、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ：冬鳥のシーズンには早いのですが、久しぶりに明戸堰へ行ってみます。荒川の工事もほぼ完成したようです。浅瀬が多くなりましたので、シギやチドリの仲間が観察できるかも……。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、船木

見どころ：見沼田んぼの保全、活用の気運が盛り上がっています。花火大会の開催、見沼田んぼ・さいたま市&市民ネットワ

ークによる散歩コースの設定、道標の設置がされた。色々な面で支部も参画しているので楽しみです。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月24日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス
駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:35
→栗橋7:56→柳生8:05着。またはJR宇
都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で、東武
日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン広場。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、中
里、小林(正)、植平、進士、山田(東)
見どころ：谷中湖に渡る秋の風、エクリプス
のカモたち。ここでは餌をやらないので
オナガガモが非常に少ないのが特徴。ア
オジ、オオジュリンが見られると、夏の
思い出話に花が咲く。皆さんのフィール
ドと比較しながらゆっくりと確認しまし
よう。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月24日(土)～10月25日(日)
まだ若干名募集中。前月号をご覧ください。

川越市・西川越探鳥会

期日：10月25日(日)

集合：午前9時15分、JR川越線西川越駅前。
交通：JR川越線大宮8:36→川越で9:06発高
麗川行きに乗り継ぎ乗車、西川越下車。
担当：佐久間、長谷部、山本(真)、中村(祐)、
山田(義)

見どころ：今年は夏らしい日が少なく、梅雨
が明けたら秋のようでした。西川越の秋
は高い空にモズの高鳴き、飛翔する猛禽
類、いつものカワセミと北からの使者ジ
ョウビタキ、それとも……。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月25日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博
物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス
8:50発、行田車庫(佐間経由)行きで「産
業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、立岩、栗原、長谷川、茂木
見どころ：古墳公園としての形は年々整って
きていますが、鳥には住みにくい？ で
もこの時季さきたまの秋は、色付いた柿
とジョウビタキでしょうか。期待に応え
て出てくれるかな、目と耳で探しまし
よう。

宮城県・伊豆沼探鳥会(要予約)

期日：10月31日(土)～11月1日(日)
定員に達したので締めきりました。

第19回 鳥学講座開催のお知らせ

「ジジロと鳴くメボソムシクイはどこから
来るか? ～鳥の系統地理学への招待～」

講師：齋藤武馬(財)山階鳥類研究所自然誌
研究室研究員

日時：平成21年11月8日(日) 午後1時
30分～3時(開場午後1時)

場所：アビスタ(我孫子市生涯学習センター)
ホール(定員：120名)千葉県我孫子
市若松26-4

参加費：無料(事前の申込みは要りません)

主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館(電
話04-7185-2212)、(財)山階鳥類研究所
(広報担当 電話04-7182-1101)

会場までの交通：JR我孫子駅南口からアビ
スタ・市役所経由のバスでアビスタ前下
車。

夏の本州の針葉樹林帯で、「ゼントリ、ゼントリ」と
いうメボソムシクイの声。しかし、これとは別に「ジジ
ロ、ジジロ」と鳴くメボソムシクイの声が春の渡りの時
期に聞かれることが以前から知られていました。こ
の正体は? 謎を解明するために調査してきた齋
藤研究員が、メボソムシクイという種の成り立ちに、
DNA、音声、形態などを通じて迫り、鳥の系統地理
学と呼ばれる研究分野の面白さを語ります。

(青木正俊)



行事報告

3月1日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 43名 天気: 曇

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ オオタカ クイナ バン オオバン キジバト アリスイ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外: ドバト) スタート直後に、見える場所になかなか出てこないカケスを皆で見ることができた。上沼で水鳥を見た後、芦原の中央に差し掛かると何回も繰り返し現れたベニマシコ雌雄とアリスイをみんなが夢中で見ていて前に進むことができなくなってしまった。時間が足りなくなってコースを短縮する始末だったが、アトリの群れも皆で見ることができたし、満足できる探鳥会だった。

(玉井正晴)

3月7日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加: 47名 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) はなさき公園名物? 暴風のこのスタート。やはり風があると鳥はなかなか出てこない。しかし池のカモ類を観察しているころから風も穏やかになってきてじっくり観察開始。植物園では綺麗なジョウビタキを堪能。探鳥会人気者のカワセミも出現! 声はしても姿がなかなか見られないウグイスの梢に止まっている姿をぱっちり見られた。終わってみれば29種。公園担当者の方がいつも見ているシラコバトが出現しなかったのは残念だったが次回に期待しておこう。

3月8日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 29名 天気: 曇

カワウ カルガモ トビ ノスリ ハヤブサ キジ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ キレンジャク ヒレンジャク ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 野鳥の森へ堤防下の道を進むと先ずアオゲラが迎えてくれた。森の入り口手前の畑では綺麗な紅色のベニマシコに会う事も出来た。森の中ほどではアカゲラも待っていた。河原の方から再び開けた雑木林へ入ると40羽ほどのキレンジャクとヒレンジャクの混群が待っていた。長い間じっと留まって居てくれたので、皆で楽しむことが出来て良かった。

(大澤 祐)

3月8日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 44名 天気: 曇

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ チョウゲンボウ コジュケイ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外: ドバト) 啓蟄も過ぎ自然公園ではサンシュ、河津桜が咲き、見沼たんぼに春が訪れ始めたそんな中開始する。染谷の雑木林ではアトリの小群とカケスを観察。後半は鳥たちも順調に出現し、自然公園の池では前回に同じくカモ達を身近かで観察した。久々にセキレイ類4種を数えた。曇天だったが風もなく落ち着いた雰囲気探鳥会だった。

(工藤洋三)

3月14日(土) 坂戸市 高麗川

雨のため中止。

(山口芳邦)

3月15日(日) さいたま市 三室地区

参加: 69名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ
コガモ オオヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガ
モ オオタカ クイナ バン オオバン イソシ
ギ ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ
ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨド
リ モズ ヒレンジャク ジョウビタキ ツグミ
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズ
メ ムクドリ ハシブトガラス ハシボソガラス
(38種) 前夜に春を告げる雨が激しく降った朝、
真っ青な空であった。桃の花畑、土手からの白雪
の富士山、菜の花が一面に咲いていた。代用水の
木陰でいつもの休憩をすると、ヒレンジャク1羽
探鳥会初出現で三室探鳥会の出現鳥は119種になる。
(楠見邦博)

3月20日(金) 長瀬町 宝登山

雨のため中止。(井上幹男)

3月21日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 9名

新井浩、池田泰右、海老原教子、大坂幸男、佐久
間博文、志村佐治、千野安以、藤掛保司、増尾隆

3月22日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 31名 天気: 曇時々小雨

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガ
モ コガモ オオタカ バン キジバト カワセ
ミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ビ
ンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハ
ラ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジ
ュウカラ メジロ アオジ アトリ カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (34種) (番外: ドバト) ス
タート時にビンズイがでてくれて、オマケの小雨が
ばらばら。その雨もアトリの群が吹き飛ばしてく
れた。道端のケヤキに多数が群れて、参加者全員が
じっくりと見る事が出来た。ひさしく同種の小鳥
で多数の群れを見ることがなかったので、何か幸
せな気分になったのは私だけであろうか。アトリ
を梢で見てシジュウカラを見るとこんなに小さか
ったのかと感じてしまうと会員の声。前玉神社の
林でも鳥影も全体的に濃く、古墳の堀にもマガモ

そすくなかったがまだ居残りのコガモも多く居て
楽しませてくれた。ツバメを見た人もいて、冬鳥、
夏鳥が交差する月だった。最後にバンのいる池で
カワセミがツイーと飛んで締めくくってくれた。

(内藤義雄)

3月22日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 31名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カル
ガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ バン オ
オバン イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ セッカ
メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワ
ラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラ
ス ハシブトガラス (29種) (番外: ドバト) 前日
とは打って変わった悪天候を物ともせず集ま
った「鳥好き」の面々に後押しされるようにスター
トした。いつ降り出すか心配しつつ鳥を探すが、
強い南風にどこかに避難してしまったようだ。そ
れでも調整池にはまだ冬鳥のコガモやオオジュ
リンが残っており、待望の夏鳥代表のツバメが飛
んでくれた。切れ切れに聞こえるヒバリの声に励ま
されてなんとか農耕地を横断し、中川の土手道に
たどり着くと、カルガモやコガモの群れに1羽だ
けヒドリガモが残っている。柳の枝にカラスが3
羽と思ったら1羽はなんとオオタカの若、かなり
近づいても風を避けるのに必至で、しっかり観察
させてもらった。公園に戻って鳥合わせをしてみ
ると、シジュウカラもウグイスも出なかったが29
種になっていた。やっとリーダーの肩の荷を降ろ
した気がして解散を宣すると、待っていたような
横殴りの雨になった。リーダーも参加者もご苦労
様でした。
(田邊八州雄)

3月22日(日) 狭山市 入間川

参加: 26名 天気: 曇時々小雨

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コガモ
トビ オオタカ イカルチドリ キジバト ヒメ
アマツバメ カワセミ コゲラ ツバメ イワツ
バメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ビンズイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグ
ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
カシラダカ カワラヒワ シメ スズメ ムクド
リ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(34種) (番外: ドバト) 河原で聞きなれない声が

してきたので声の主を探してみると、カシラダカがさえぎりの練習をしていた。これからロシア方面へ数千キロの旅に出る。普段なにげなく見ているが、年に2度の大移動をする彼ら。次の冬にどこかで出会ったときには敬意をもって見るべきか。
(長谷部謙二)

3月28日(土) 栃木県日光市 東照宮裏山
参加: 59名 天候: 晴

アオサギ コガモ カワアイサ トビ ノスリ
クマタカ キジバト コゲラ ツバメ イワツバ
メ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ルリビタキ
ウグイス キクイタダキ エナガ コガラ ヒガ
ラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キ
バシリ ホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (34種) スタート地点の市営駐車場でさっそ
くクマタカが青空を舞って歓迎してくれた。大谷
川に移ると久しぶりのカワアイサが現れ、カワガ
ラスに加えてミソサザイも見ってしまった。もう終
わってもいいなと思いつつ山道にむかうとカラ類
が楽しめた。特によかったのは間近に現れたキク
イタダキで、頭の黄色の中の赤い色を見たという
人もいた。平地では見られない山の鳥を沢山見ら
れて幸せな一日であった。
(玉井正晴)

3月29日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地
参加: 56名 天気: 晴

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイ
サギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒ
ドリガモ アメリカヒドリ トビ ノスリ チュ
ウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ コチド
リ シロチドリ ユリカモメ セグロカモメ キ
ジバト アカゲラ コゲラ ヒバリ ツバメ ハ
クセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョ
ウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホ
オジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シ
メ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス
ハシブトガラス (43種) 干上げの谷中湖に水が入
り、少しカモ類が戻っていた。殺風景な中に夏羽
のカンムリカイツブリが1羽。護岸の水際にコチ
ドリ、谷中ブロックではマガモ、カルガモ、コガ
モ、ヒドリガモとアメリカヒドリ、浮島の上をチュ
ウヒが飛び、いつものところにハヤブサ。後半

は史跡ゾーンの散策路を探鳥。葦焼き後の黒い台
地が遊水地の春の始まり。屋敷林でルリビタキを
発見。一方で、冬鳥ツグミ、ジョウビタキ、オオ
ジュリン等43種と強風の中でまざまざの出現だっ
た。
(内田孝男)

4月5日(日) 北本市 石戸宿
参加: 65名 天気: 晴

アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ
ハイタカ チョウゲンボウ コジュケイ キジ
バン キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ
ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズ
イ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ツ
グミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカ
ラ メジロ ホオジロ アオジ アトリ カワラ
ヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カ
ケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種)
(番外: ガビチョウ) 恒例のお花見探鳥会。酒宴
でにぎわう桜堤を避け、蒲桜まで足を伸ばす。葉
桜になりかけたエドヒガン、八分咲きのソメイヨ
シノ、カタクリにシロバナタンポポを楽しみ、鳥
もじっくり観察。ツバメが上空を舞い、アオジの
さえぎりにしばしうっとり。ベニマシコは声だけ
で確認。東屋近くで、待望のルリビタキ♂成鳥も
出てくれて大満足。
(浅見 徹)

4月5日(日) さいたま市 民家園周辺
参加: 55名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
ギ カルガモ コガモ トビ オオタカ ノスリ
バン コチドリ タシギ キジバト アリスイ
コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨド
リ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
ラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラ
ヒワ ベニマシコ イカル シメ スズメ ムク
ドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (42種) 絶好のお花見鳥見日和。心配し
ていた桜やほかの花々も満開。鳥たちもたくさん
出てくれて参加者の方も楽しんでいただけたと思
う。なかでも民家園探鳥会初のアトリ(オスの頭
が黒くて美しかった)、見つけた人がファインプレ
ーだったアリスイなど、よかった。でも、他のイ
ベントが重なり、人が多くて大変だった。
(伊藤芳晴)

連絡帳

●新規約の案を検討しています

7月号本欄でご報告したとおり、公益法人制度改革による当支部の名称変更が、来年6月の総会で審議されますが、それには規約の改定なども必要です。手続きを円滑に進めるため、支部役員会では新しい規約案の検討を始めました。

●秋の危険生物2種にご注意ください

ツツガムシ病は、関東地方では秋から初冬にかけてがピークとされています。

- 1, 長袖・長ズボン着用で肌の露出を減らし、露出部には、ダニ忌避剤を塗る。
- 2, 脱いだ衣類・タオルなどを、地面や草の上に直接置かない。
- 3, 直接草の上に座ったり寝転んだりしない。鳥の観察や撮影のため、藪の中で長い時間を過ごさない。
- 4, 帰宅後は入浴して全身を洗い流し、衣類はすぐに洗濯する。

などのご注意をお願いします。発症はインフルエンザに似ていますが、万一ツツガムシ病の可能性がある場合は、そのことを必ず医師に伝えてください。



スズメバチは日本に3属16種が生息、9月から10月にかけて個体数が最大になります。スズメバチが近付いて来たとき、手で追い払ったりせず、冷静に様子を見てください。通常は間もなく飛び去りますが、しつこくまといつき、威嚇するような行動が見られたら、体を低くして、直ちにそこから離れてください。

黒い服や帽子の人、香水をつけている人、蜂蜜を常用している人は刺されやすいという説が

あります。

運悪く刺された時は、傷口をつまみながら水で洗い流し、できるだけ毒を吸引し(人の口で吸い出そうとするのは、厳禁です)、冷やしながらか、早く病院に行くことが肝心です。

●ごめんなさいコーナー

8月号本欄でご紹介した「蓮田市黒浜沼を愛する会」の正しい名称は、「NPO法人黒浜沼周辺の自然を大切にする会」でした。

●会員数は

9月1日現在 2,131 人です。

活動と予定

8月8日(土) 9月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・志村佐治・山田義郎)。

8月16日(日) 役員会 (司会：藤掛保司、各部の報告・新規約案について・その他)。

8月25日(火) 要予約探鳥会があるので、(株)メール経由で発送される分と日にちが近付くように調整して、「支部報だけの会員」に向けてこの日に9月号を発送(倉林宗太郎)。

●10月の予定

- 10月3日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 10月10日(土) 11月号校正 (午後4時から)。
- 10月17日(土) 袋づめの会 (午後3時から)。
- 10月18日(日) 役員会 (午後4時から)。

編集後記

行事報告が今年3度目の3ページになりました。過去には直近の行事まで報告しないとページが埋まらないこともありましたが、現在は掲載待ちの報告が増え過ぎています。あまり古くならないうちに報告できるよう、対策を考える必要があります。(も)

しらこぼと 2009年10月号(第306号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社